



パネル展

# 写真で見る埼玉県産 鉱物

令和2年 2月11日(火・祝)～6月21日(日)

小林 まさ代

令和2年2月11日から6月21日まで、パネル展「写真で見る埼玉県産鉱物」を開催しています。埼玉県の鉱物と聞いて「スティルプノメレン」が思い浮かべば、地質や鉱物に多少なりとも興味を持っている方でしょう（2016年に（一社）日本地質学会が定めた「埼玉県の鉱物」）。そのほかにも、古いところでは1887年に小藤文次郎が発表をした紅簾石、1935年に日本で初めてその産出が報告された東秩父村のアルミノパンペリー石、1971年に世界新産鉱物として発表された秩父鉱山の水酸エレストド石（現在は、世界新産鉱物から外れています）など、意外にも埼玉県には鉱物の話題が豊富なのです。

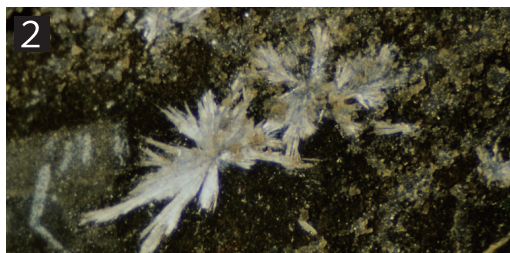
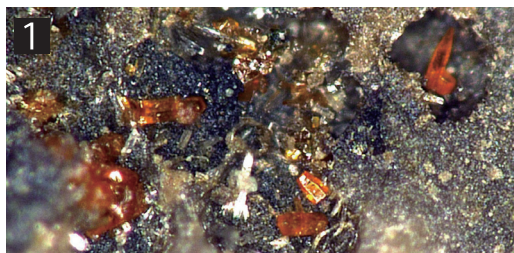
埼玉県内では、これまでに約250種の鉱物の産出が知られています。そのうち半数以上は秩父鉱山での記録です。産出する金属種の多さが特徴のスカルン鉱床で、金属種数に応じて形成する鉱物の種類も増えるため、現在報告されている147種は、日本屈指の記録です。

また、県内に約80か所あるマンガン鉱山跡からは、国内では埼玉県でのみ産出するような、希少な日本新産鉱物も複数報告されています。秩父

市浦山の広河原鉱山からはランベルグ鉱、メタスウィッター石、飯能市上名栗の小松鉱山からは、フィアネル石、アンセルメ石、フランシスカン石、ポッピー石…などなど。県内在住のアマチュア鉱物研究家の尽力により発見、報告されたこれらの鉱物は、博物館でも標本を収蔵していましたが、これまでに展示はしてきませんでした。なぜ？それは、これら希少鉱物は、あまりに結晶が微細なものが多く、顕微鏡を使わなければ観察不可、展示してもお目当ての鉱物は全く見えずに終わってしまう…というのが最大の理由です（そんな小さな鉱物を見出し、記載をした方たちには、心より敬意を表します）。

本展示では、埼玉県でのみ見つかっている希少鉱物を中心に、写真であれば美しい結晶が見られる鉱物をセレクトし、パネルで紹介しています。また、最新の埼玉県内鉱物情報として、2019年の日本鉱物科学会年会で報告された、日本産出初記録の鉱物「ホルツタム石榴石」についても、解説を行っています。マニアックでディープな鉱物の世界ですが、興味を持っていただければ幸いです。

（こばやし まさよ・学芸員）



1. ランベルグ鉱：マンガン硫化物。赤橙色が美しいが、空気に触れると黒化する。（松原聡氏撮影）／2. メタスウィッター石：白色針状のマンガンリン酸塩鉱物。（滝沢実氏撮影）／3. ポッピー石：バナジウムを含む暗緑色のパンペリー石。（山田隆氏撮影）／4. フィアネル石：橙赤色のマンガンバナジウム酸塩鉱物。（原田明氏撮影）